

岡崎市議会議長 様

支出番号

4

会派名

自民清風会

代表者名

中根 武彦

下記のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政務活動報告書

令和6年8月23日提出

活動年月日	令和6年7月29日（月）～30日（火）	
氏名	野本 篤	
用務先 及び 内 容	1 7月29日	用務先 全国市町村国際文化研修所（大津市）
		内 容 令和6年度第2回市町村長等・議会議員特別セミナー
	2 7月30日	用務先 全国市町村国際文化研修所（大津市）
		内 容 令和6年度第2回市町村長等・議会議員特別セミナー
	3 月 日	用務先
		内 容
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

政務活動旅行報告書

報告者：野本 篤

日 程：2024年7月29日～7月30日

場 所：全国市町村国際文化研修所（JIAM）

研修名：令和6年度 市町村長等・議会議員特別セミナー



研修のポイント

日々目まぐるしく変わりゆく国内外の情勢の中で、様々な行政課題について学び、施策を提案・実施していくことが求められる。

本セミナーでは地方行財政というテーマのもと、各分野で活躍されている講師からの講演を聞き、改めて現代社会を捉えなおすと共に、今後の我がまちの未来や地方行政に求められる役割についても多角的に考えていく。

研修の日程

講義① 曖昧な弱者とその敵意 ～社会分断の新たな構造～

講師：成蹊大学文学部現代社会学科 教授 伊藤昌亮 氏

講義② ともに生きる 未来につなぐみんなでつくる「健康しが2.0」

講師：滋賀県知事 三日月大造 氏

講義③ 労働供給制約社会への処方箋 働き手不足 1100万人が引き起こす危機と希望

講師：リクルートワークス研究所 主任研究員 古谷星斗 氏

講義④ こどもたちの生きる力を育む COLOMAGA プロジェクトの活動の軌跡

講師：COLOMAGA プロジェクト本部事務局長 高橋いづみ 氏

考 察

講義①にて社会的弱者における見落とされてしまいがちな存在を改めて知ることとなった。明らかなる社会的弱者への公的支援はもちろん必要なことであるが、隙間に存在する曖昧な弱者には支援の手が届いていない。評価もされずにくすぶり続けている可能性が高い。そのまま放っておいてよいのだろうか？誰もが誰かに必要とされる存在でいたいものである。どのような手法があるのかを検討していく必要があると考える。経済的なものだけでなく心の充足感を満たすこと、地域における居場所づくり、再チャレンジが可能な社会を構築していくことが必要である。

講義②では滋賀県知事による事例紹介が印象的であった。障がい者アートに焦点をあてた公立美術館としての収集や企画展は珍しいものである。現在、障がい者アートの活用は注目され始めている。支援する施設の持続性はもとより、障がいある人達の充実した人生の下支えにもなるものと可能性を感じる。本市においても検討されることを期待したいものである。また、誰もが避ける事ができない「死」に対して、様々な角度から学び議論していく「死生懇話会」という取組みも大いに関心を持った。行政で取り組むことではないという意見も当初においてあったようであるが、逆に行政の主導による取り組みだったからこそ安心して参加できたという意見が多かったとのことであった。様々な死にまつわる行政の取り組みを啓発していく観点でも非常に有効的であり、本市でも実施することを期待するものである。

講義③にて既に始まっている労働力不足に対する業種別の将来見通しを基にどのような対応をしていくべきかを学ぶこととなった。そもそも、これからの労働力不足は経済状況の変化による一時的なものではないということが重要であり、徹底的な省力化やDXの推進による対応がどの分野においても必要となることは必須となる。制約された労働力を補うために必要な本業以外の活動で誰かの何かを結果的に助けている活動である「ワーキッシュアクト」の考え方を推進することが必要と考える。ニーズと報酬をどのように設定すべきか、地域内通貨やポイント制度の活用も視野に入れた社会のしくみづくりによって制約された労働力環境の中を回していくことが必要であると考ええる。

講義④では将来の地域の担い手となるこども達の地元愛の醸成を狙った広報紙制作の取り組み事例を学んだ。どの地方自治体においても共通の課題といえる若年層の都会への流出。もちろんその自治体における魅力向上に向けた取り組みは必要であることは理解できるが、そもそも、流出してしまう若年層が生まれ育った地域の豊富な魅力に気づけていないのではないかと課題から広報紙の制作をきっかけにして気づかせていくのは効果的な取り組みだと感じた。シビックプライドの醸成に限らず、キャリア教育、社会における生きる力を育むプログラムと考えられ、デジタルコンテンツを制作することも視野にいれていけばデジタル・シティズンシップ教育にもつながる可能性を強く感じた。全国にこのプロジェクトの展開をしていることから、本市においても高校生との連携による地域づくりの取り組みがなされていることから本市での実施も期待するものである。

今回の学びの中で強く関心を持った取り組みについては、行政視察にて更なる調査をしてみたいと考える。